

# 令和3年度農作物病虫害発生予察注意報第2号

令和3年(2021年)10月6日  
山口県病虫害防除所

病虫害名 イチゴのハダニ類

1 発生地域 県内全域

2 発生程度 やや多

3 注意報の根拠

- (1) 9月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は46.7%（平年17.5%）で、過去最高となった令和元年、令和2年と同程度であった。また、寄生株率は8.2%（平年5.1%）で、平年に比べ高い水準であった（図1、図2、図3）。
- (2) 10月の気温は平年より高いと予想されており、今後もハダニ類の多発が懸念される。
- (3) 栽培初期に防除を徹底し、ハダニ類の発生密度を低下させる必要がある。

4 防除方法

- (1) ハダニ類はほ場内で部分的に発生することがあるので、ほ場全体をよく観察し、ハダニ類の発生を認めたら直ちに防除を行う。
- (2) 薬剤防除の前には、薬剤が葉裏まで十分かかるように下葉を除去する。また、除去した下葉は、ほ場外に持ち出し適正に処分する。
- (3) 天敵（ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ）を使用する場合は、天敵に影響の少ない薬剤でハダニ類の密度を低下させた後、導入する。
- (4) 気門封鎖剤を使用する場合は、その多くがハダニ類の卵には効果が低く、残効性がないため、7～10日間隔で散布する。
- (5) 防除薬剤は、表を参考に選定する。

5 防除上注意すべき事項

- (1) ナミハダニ黄緑型（図4、図5）は体色が葉色と同化して虫体が見えにくいため注意が必要である。
- (2) 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統薬剤の連用は避ける（表）。
- (3) 薬剤散布を行う場合は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。
- (4) 農薬使用基準を遵守し、適正な散布作業を実施する。

6 その他

「イチゴのハダニ類の発生確認および簡易薬剤検定方法」、「薬剤感受性検定の結果」は、山口県病虫害防除所ホームページを参照する。

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a17201/nougyou/shigen/index00.html>

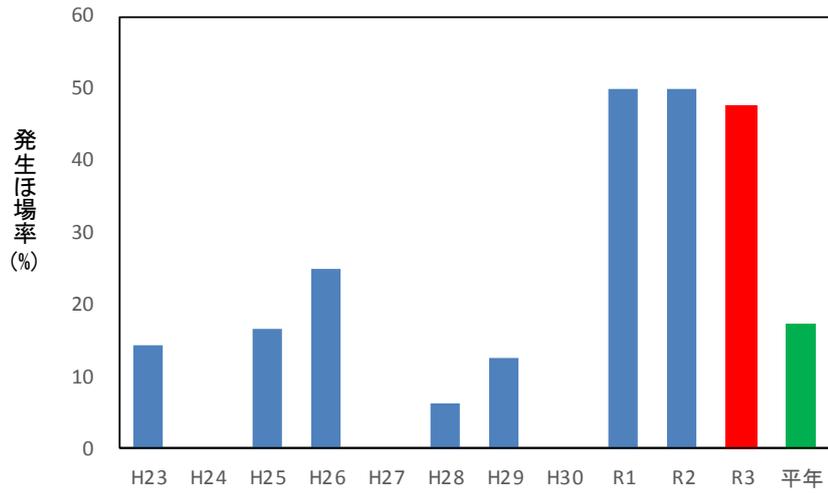


図1 発生ほ場率の年次比較(9月下旬)

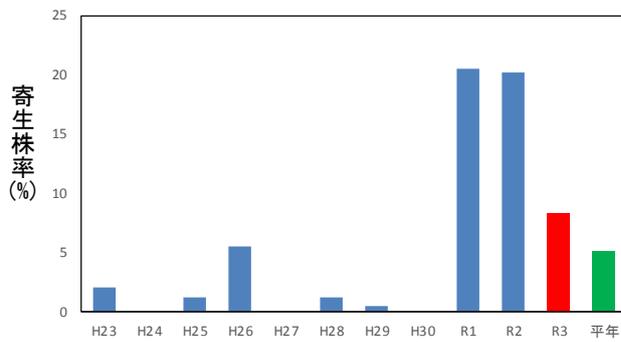


図2 寄生株率の年次比較(9月下旬)

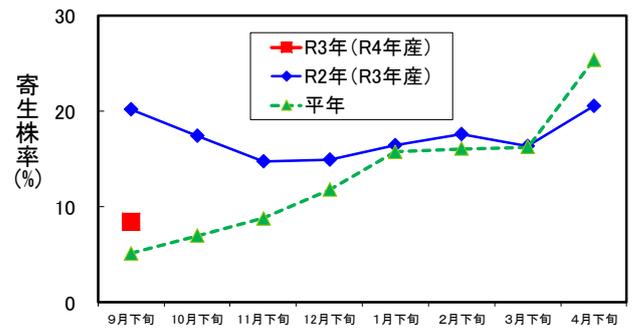


図3 寄生株率の推移



図4 ナミハダニ(黄緑型、成虫・若虫・卵)



図5 ナミハダニが多発生したイチゴの葉

表 イチゴのハダニ類に登録のある主要な農薬(野菜類での登録を含む)

令和3年10月6日現在

系統	殺虫剤コード	一般名	商品名	防除対象			希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	ミツバチの安全日数	カブリダニ類への影響
				卵	幼・若虫	成虫					
生物農薬	天敵	ミヤコカブリダニ剤 200頭/10ミリリットル	スパイカルEX(-)	○	○	○	100~300ミリリットル/10a(約2000~6000頭)	発生初期	-	○	△
		ミヤコカブリダニ剤 50頭/パック	スパイカルプラス(-)	○	○	○	40~120/パック/10a(約2000頭~6000頭/10a)				
		チリカブリダニ剤 2000頭/100ミリリットル	スパイデックス(-)	○	○	○	100~300ミリリットル/10a(約2000~6000頭)				
		チリカブリダニ剤 1000頭/250ミリリットル	チリトップ(-)	○	○	○	6000頭/10a				
一	気	マシン油乳剤 97%	トモノールS(普)	×	○	○	100~150倍,100~300リットル/10a	-	-	翌日	△
			スプレーオイル(普)	×	○	○	100~150倍,100~300リットル/10a	-	-	翌日	△
			アタックオイル(普)	×	○	○	100~150倍,100~300リットル/10a	-	-	翌日	△
			ハーベストオイル(普)	×	○	○	200倍,100~300リットル/10a	-	-	翌日	△
		マシン油乳剤 98%	ラビサンスプレー(普)	×	○	○	100~150倍,100~300リットル/10a	-	-	翌日	△
		プロピレングリコールモノ脂肪酸エステル乳剤 70%	アカリタッチ乳剤(普)	△	○	○	1000~3000倍,100~400リットル/10a	収穫前日まで	-	翌日	○
		還元澱粉糖化物液剤 60%	エコピタ液剤(普)	×	○	○	100倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	-	翌日	△
		脂肪酸グリセリド乳剤 90%	サンクリスタル乳剤(普)	○	○	○	300~600倍,150~500リットル/10a	収穫前日まで	-	翌日	△
		ソルビタン脂肪酸エステル乳剤 70%	ムシラップ(普)	×	○	○	500倍 100~300リットル/10a	収穫前日まで	-	翌日	△
		ヒドロキシプロピル化リン酸架橋テンソル液剤 5%	粘着くん液剤(普)	×	○	○	100倍,150~300リットル/10a	収穫前日まで	-	○	△
		ポリグリセリン脂肪酸エステル乳剤 82.5%	フーモン(普)	×	○	○	1000倍,150~500リットル/10a	収穫前日まで	-	翌日	△
調合油乳剤 97.0%	サフオイル乳剤(普)	○	○	○	300~500倍,100~500リットル/10a	収穫前日まで	-	翌日	△		
有機銅	気	DBEDC乳剤 20%	サンヨール(普)	×	△	△	500倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	6回以内	○	○
ピレスロイド	3A	アクリナトリン水和剤 3%	アーデント水和剤(普)	×	○	○	1000倍,150~300リットル/10a	収穫前日まで	4回以内	2~3日	×
マクロライド	6	エマメクテン安息香酸塩乳剤 1%	アフファム乳剤(普)	△	○	○	2000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	2~3日	×
		ミルベメクテン水和剤 2%	コロマイト水和剤(普)	○	○	○	2000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	翌日	×
殺ダニ剤	10B	エトキサゾール水和剤 10%	バロックフロアブル(普)	○	○	×	2000倍,100~350リットル/10a	収穫前日まで	1回	翌日	△
	20B	アセキノシル水和剤 15%	カネマイトフロアブル(普)	○	○	○	1000~1500倍,150~300リットル/10a	収穫前日まで	1回	○	○
	20D	ピフェナゼート水和剤 20%	マイトコーネフロアブル(普)	○	○	○	1000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	翌日	○
	21A	テブフェンピラド乳剤 10%	ピラニカEW(劇)	○	○	○	2000~3000倍,150~300リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	翌日	×
	25A	シフルメフェン水和剤 20%	ダニサラバフロアブル(普)	○	○	○	1000倍,100~350リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	翌日	○
		シエンピラフェン水和剤 30%	スターマイトフロアブル(普)	○	○	○	2000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	翌日	○
	25B	ピフルブミド水和剤 20%	ダニコングフロアブル(普)	○	○	○	3000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	1回	○	○
	21A 25B	ピフルブミド・フェンピロキシメート水和剤 15.5%	ダブルフェースフロアブル(普)	○	○	○	2000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	1回	○	△
-	アシナピル水和剤 20%	ダニオーテフロアブル(普)	○	○	○	2000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	○	○	
一	30	フルキサメタミド乳剤 10%	グレーシア乳剤(普)	○	○	○	2000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	翌日	×

注1 殺虫剤コード：薬剤の作用機作による分類で、同じコードの薬剤を連用すると感受性が低下する可能性が高くなる。

「気」は気門封鎖等の物理的効果を示す薬剤で、感受性の低下には影響しないと考えられている。

注2 防除対象

「○」：効果あり 「△」：部分的な効果あり 「×」：効果なし

注3 ミツバチの安全日数

「○」：影響なし(「薬液が乾けば影響なし」を含む)

・本表は、各県の資料及びメーカー資料を参考に安全日数を掲載した。

・通常的使用では影響がない剤であっても、薬液が乾かなかつたり、臭いが残る場合は、訪花活動に影響を及ぼす場合がある。

・低温・曇雨天が続く場合は薬剤の分解が進まず、遅くまで影響が残ることがある。

・巣門を開け、ミツバチを再導入する前には、換気を十分に図り、薬液が乾いていることを確認する。

注4 カブリダニ類への影響

日本バイオロジカルコントロール協議会資料等を参考にミヤコカブリダニ、チリカブリダニへの影響をまとめた。

「○」：影響なし 「△」：影響あり 「×」：死亡率が高く、影響が大きい